



【団体名】ながさき女性医師の会

ながさき女性医師の会ホームページ

<http://nagasaki-joi.net/>

【取組の概要】

「研究」、「キャリアアップ」、「医療による社会貢献」など、明確な目的やビジョンをもって働く女性医師たちが長崎県下にもたくさんいます。そのキャリアの途中で出産・育児など、仕事と生活の両立は切実な問題であり、より働きやすい環境が求められます。この数年、仕事が続けられるような仕掛けはできています。そうなった今、女性医師がしなければならないこと、必要なことは、社会に対して責任を持って仕事をし、行動を起こすことだと考えて、活動しています。

【取組の実際】女性医師たちが働きやすい環境づくりについては、長崎県福祉保健部医療人材対策室と長崎大学病院メディカルワークライフバランスセンターによる「あじさいプロジェクト(<http://nagasaki-ajisai.jp/>)」に協力する形で取り組んでいます。

その他の活動としては、

- ① 市民公開講座の開催…女性医師がより貢献できる分野に関する医療問題を取りあげて、一般の方々への情報提供をするとともに、女性自健康について考えて欲しいと思っています。【写真①】
(過去のテーマ:2018年「若年女性のがんと妊孕性【注1】」、2017年「女性と排尿障害」、2016年テーマ「女性とタバコ」など)
- ② 女性医師の功績を学ぶ…2018年から、毎年8月の最終土曜日に楠本イネ女史の墓参(皓臺寺)を続けています。【写真②】
2019年映画『一粒の麦 荻野吟子【注2】の生涯』の上映会を開催しました。(一般公開)、
- ③ 他の団体との連携活動…2021年「生理の貧困」対策ながさきプロジェクトの賛同団体として活動に参加しています。

写真①



写真②



2020年3月“AYA* Week2020”でオンラインシンポジウム開催「AYA世代【注3】のがんについて考える」

※注1 妊孕性:女性、男性両方に関わる「妊娠するために必要な能力(臓器やその機能)」のことです。

※注2 日本における最初の国家資格をもった女性の医師で、女性運動家でもあった。

※注3 AYA世代:Adolescent and Young Adult の略。思春期・若年成人世代(15~39才)を指します。

【メッセージ】

西洋医学発祥の地である長崎には、その医学についての知ることでできる場所がたくさんあります。シーボルトの娘である楠本イネ女史は、長崎男性たちに混じって医学を学んだものの、当時は女性が医師になることは認められず、産婆(現在の助産師)として生涯を終えました。それでも、出産・分娩で命をおとしたり、男性による暴力の被害にあう女性たちを救いたいと思って最後まで医術を続けた彼女のことを長崎人として知って欲しいと思います。

また、医学に関わろうと思う人はもちろん、そうでない人も、医療や健康の問題は生きるために大切なことであり、お互いを大切にする基本です。すべての人の「いのち」を大切にすることをおもってほしいと思います。それは、環境にも、平和にもつながっていきます。